

研究課題 (テーマ)	児の啼泣動画に対する父母の感情・情動反応の分析 ～児童虐待の第一次予防としての啼泣する児と関わる疑似育児体験プログラムの開発に向けて～		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科 母性看護学講座	助教	村上 利矢子
	看護学科 母性看護学講座	教授	松井 弘美
	看護学科 母性看護学講座	准教授	工藤 里香
	看護学科 母性看護学講座	講師	村田 美代子
研究結果の概要			
<p>近年、日本では少子化、核家族化が進み、乳幼児と関わる機会が減少している（原田 2006, ベネッセ総合研究所 2015）。乳幼児と関わった経験のない初産婦では、児の啼泣に困難感を抱きやすいことが報告されている（田淵 2008）。「児の啼泣」への困難感、児童虐待の誘因となっており、「児の啼泣」への困難感を軽減する支援を構築することは、児童虐待の第1次予防の観点から極めて重要な課題である。</p> <p>「児の啼泣」の反応プロセスでは、まず「感情・情動反応」や認知反応が起こり解釈や対処行動に繋がると言われている（田淵 1999）。「児の啼泣」に対する困難感には、これまで解釈や対処行動に介入がなされてきたが効果は乏しく、「児の啼泣」への反応プロセスにおいて根本となる「感情・情動反応」への介入が必要である。妊娠期に児の啼泣の疑似体験をすることによって、児の啼泣に直面する前に自身の「感情・情動反応」を理解することができる。本研究では、その疑似体験となる児の啼泣動画の作成を行い、父母の感情・情動反応を明らかとする。この分析を「児の啼泣」への困難感を減らす「啼泣する児と関わる疑似育児体験プログラム」の開発に繋げていく。</p> <p>① 児の啼泣に関する先行研究を参考に感情・情動反応を惹起する動画を作成した。          ② 父母の感情・情動反応の調査に関しては、研究協力者の対象が妊娠期の夫婦であり COVID-19 の感染の懸念から年度内に協力者を得られなかった。</p> <p>児の啼泣動画に用いる動画データを提供下さった皆様に感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
<p>妊娠期の夫婦が安心して参加しやすいようにオンライン会議システムを用いた研究方法に変更を行った。これにより、研究協力者を得てデータ収集、分析を進める。</p>			